

島根の味生きる15品

学生と企業連携 食品フェア

松江・県物産館



島根県内の高校生や大学生が企業と連携し、商品化した食品を販売するフェア。地域の特産を使用したかきんとう

島根県内の高校生や大学生が企業と連携して商品化した食品を手取る観光客

松江・県物産館

松江・県物産館が松江市殿町の県物産観光フェアで開かれている。地域の味を生かした15品が並び、観光客が島根の魅力が詰まった一品を手にとっている。20日まで。

県立大短期大学部健康栄養学科（松江浜乃木7丁目）の学生と市内のカレー店が考案した「しまね三昧」は、インゲン肉やオクラ、出西ショウガといった地域の特産をふんだんに使った煮込み料理のレトルト食品で、松江ゆかりの文豪・小泉八雲が好んだ一品という。矢上高校（島根県邑南町）と邑南町観光協会の合作「米粉の焼きかりんとう」は同校で作ったみそを、松江商、浜田水産が出品している。フェアは県物産協会が初めて企画した。同協会の井上博之企画開発課長（64）は「普段は置いていない食品がほとんど。ぜひこの機会に手に取って購入してほしい」と話した。

（平井優香）

県立大生の旅行企画商品化

多忙な日々「癒やし旅を

出雲空港（出雲市斐川町沖洲）の開港50周年記念事業で、県立大短期大学部（松江市浜乃木7丁目）の学生が参加した旅行企画コンテストの優勝チームのツアーが商品化され、今月、販売が始まった。横浜・鎌倉2泊3日の旅で「癒やし」をテーマにしたプラン。学生は「旅先で自分なりの『推し』を見つけ、思い出に残る旅にしてほしい。日頃忙しい人たちにこそ参加してほしい」と呼び掛けている。

（岩井彩佳）



出来上がったパンフレットを確認する北川香葉子さん（左）と舟木香夏菜さん

大学と日本航空、一畑トラ

ベルサービスとの共同企画。

出雲―東京の往復便を使う条件で募集した。

最優秀賞に選ばれた総合文化学科1年の北川香葉子さん（22）と舟木香夏菜さん（19）が

9月に下見に行った2人は

財の「かいひん荘鎌倉」に泊まる。

当初案でツアーに組み込んでいた中華街での肉まんやギョーザ作り、鎌倉彫の丸盆作りの体験は希望参加とするオプションに変更し、コストを抑えつつ自由行動の時間を広げた。

利用空港出雲

横浜・鎌倉周遊

今月から販売

考案したのは、「ゆったりめ 体験も楽しいホテルもとべる横浜・鎌倉の旅」。

旅行初日は終日自由行動。一畑トラベルサービスのホームページから、最寄りの営業所に電話で申し込む。問い合わせはナイスツアーセンター、電話0852（21）0277。島を眺望できる鎌倉プリンスホテルまたは国登録有形文化



島根県立大

新学長候補に清原氏

松江出身 12月に選考会議



清原 正義氏

任期満了に伴い2017年4月に交代する公立大学法人・島根県立大（浜田市野原町）の理事長兼学長候補に、同法人・兵庫県立大（神戸市）の清原正義理事

長兼学長（69）＝松江市出身
が法人の規定で最長と定め
た8年となる本田雄一理事
長兼学長（76）は、退任する
関係者によると、学長を
兼ねる新理事長の選考会議

17年3月末で、在任期間
が法人の規定で最長と定め
た8年となる本田雄一理事
長兼学長（76）は、退任する
関係者によると、学長を
兼ねる新理事長の選考会議

（議長・久保田章市浜田市
長、6人）は12月2日に開
かれる予定。法人の経営委
員会（議長・本田学長、13
人）と、教員らでつくる2
団体の計3団体が推薦候補
を出し、協議で1人を決め
る。最終的には、年内に知
事らが任命する。

3団体のうち、松江キャ
ンパス（松江市浜乃木7丁
吉川健也）

（尾添久一、吉田真人、

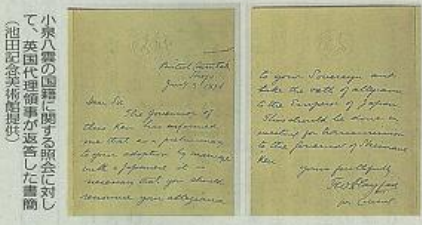
吉川健也）

目の短大部の教員らでつ
くる短大部教育研究評議会
が清原氏の推薦を決めた。
法人の経営委員会も同氏の
推薦を決める見通し。
浜田キャンパスの総合政
策学部の教員らでつくる県
立大教育研究評議会は11
月30日に推薦候補者を決め
る予定。学内で立候補者を
募るなどしたが、具体的な
推薦候補者は上がっていないとい

平成 28 年 11 月 22 日付・山陰中央新報

セツと結婚 日本国籍取得

愛知学院大教授 未公開書簡から論文



小泉八雲の国籍に関する照会に對して、英国代理領事官が返答した書簡（池田記念美術館提供）



小泉八雲（泉家提供）

日本入女性と結婚し、日本文化を海外に広めた
明治時代の作家小泉八雲（ラファエロ・オハーン、
1850～1904年）は、英国が国籍離脱を認め
ず、日本との二重国籍、だった可能性が高い
との論文を、愛知学院大の竹下修子教授（家族社
会）が24日までに明らかにした。

八雲は、松江市に生れ、結婚、女性戸主と結婚す
いた際に身の回りの世話を「入夫」の形で、1889
をしてもらっていたセツ
6年に当時の日本国籍に
当たる「日本人タル分
限」を得て日本人となつた
が、新たな人物像を描く
資料として注目されてつ
だ。

竹下教授によると、八雲
以前にもあった英国人男性
と日本人女性の入夫婚姻

八雲の英国籍離脱 当局は認めず

「婚姻によって臣民として
の義務を脱却しようとする
なら到底許し方がない」とし
ており、国籍離脱を認めて
いなかった。

八雲のひ孫で「小泉八雲
記念館」（松江市）の小泉
凡船長は「未公開書簡が決
め手となった貴重な発見。
史実について再検討が必要
になるかもしれない」と話
している。

平成 28 年 11 月 25 日付・山陰中央新報

ワサビ苗植え挑戦

県立大生20人 指導受け丁寧に



ワサビの苗を植える学生たち

大田
県立大の学生20人が26日、大田市温泉津町西田のワサビ田を訪れ、管理者らの指導を受けながら苗植えに挑戦した。県内をフイ

ルドにしたボランティア活動の一環で、学生たちはワサビの順調な生育を思い描きながら、丁寧に作業に取り組んだ。
同大と同大短期大学の学生が参加し、地区内の山中にある幅5・5メートル、長さ約20メートルのワサビ田で、管理者の長見幹子さん(80)大

田市水上町一から手ほどきを受け、苗植えを体験した。学生たちは、周辺に自生しているワサビの苗を抜いて田に運び、約30メートル間隔で植え付けた。苗を石で囲むなど作業のこつを会得し、連携して手際よく植えた。
収穫時期は2年半から3年後といい、参加した総合文化学科2年の山岡さくらさん(19)は「普段はできない体験だった。空気がおいしく、ここで育つワサビはおいしいと思う」と笑顔を見せ、長見さんは「若者の一生懸命な姿に感激した。また、成長したワサビを見に来てほしい」と望んだ。
取り組みは、同大が、県内をフィールドにした各種のボランティア活動を通じて学生が地域の実情を知る機会を設けようと毎年実施している。(松浦光芳)

平成 28 年 11 月 27 日 付 ・ 山陰中央新報

県立大短大部松江 創立70周年祝う

卒業生ら300人式典

島根県立大短期大学部松江キャンパス(松江市浜乃木7丁目)の創立70周年記念式典が27日、松江市内であった。卒業生や関係者ら約300人がこれまでの歩みを振り返り、2018年4月の4年制化に向け、さらなる発展を誓った。

県立松江女子専門学校として1946年に発足。島根女子短大、県立女子短大などを経て、2007年に県立大、県立看護短大と統合・法人化し、男女共学となった。これまで約1万人を送り出している。現在は保育(定員50人)、

総合文化(同140人)、健康栄養(同40人)のいずれも2年制の3学科を設置。18年に3学科を4年制化し、保育教育と地域文化の両学科からなる人間文化学部(同110人)を新設するとともに、2年制の短期大学部(同80人)も縮小して存続する。健康栄養学科(同40人)は出雲キャンパス(出雲市西林木町)に移す。
式典で本田雄一学長は4年制化について「地域や社会のニーズに応え、存在感を発揮していく。特色を明確にして軌道に乗せたい」と述べた。
式典は、県立大短期大学部松江キャンパスと、卒業生でつくる松苑会(来海公子会長)が共催。このほか、小泉八雲のひ孫の小泉凡・県立大短期大学部教授による講演などがあった。
(河野亜美)

平成 28 年 11 月 28 日 付 ・ 山陰中央新報

大卒就職内定率 島根最高の80.1%

労働局10月末まとめ

島根、鳥取両労働局は2017年春に島根、鳥取両県内の高校、大学などを卒業予定の生徒、学生の10月末時点の就職内定率を発表

した。大学などは、島根が前年同期比4・9ポイント増の68・8%、鳥取が1・8ポイント減の70・9%。高校は、島根が0・5ポイント増の83・8%、鳥取が2・4ポイント増の81・9%だった。

大学などは、島根が就職希望者1994人で内定者

が1371人。鳥取が就職希望者1840人で内定者が1305人だった。

島根の内定率の内訳は、人手不足を背景に県外からの求人数が増加し、大学・

大学院が前年同期比3・6ポイント増で過去最高の80・1%

となった。短大・高専は1

・7ポイント減の60・2%、専門

学校・職業能力開発学校は

8・7ポイント増の59・1%だった。

鳥取は、県外就職希望者の内定率が下がった大学・

大学院が3・5ポイント減の75・

4%、専門学校が4・1ポイント減の55・1%。短大と高専は各1校しかないとの理由で、非公表としている。

高校は、島根が就職希望者数1296人に対し内定者が1086人。鳥取が1158人に対し948人だった。

県内事業所からの求人数は、人手不足などを受けて、島根が前年同期より328人多い2320人。鳥取が196人増の1784人だった。
(佐野卓矢)